

第2学年 国語科学習指導案

単元名 くらべて読もう！本の中のあの子とわたし

教材名 「わたしはおねえさん」

1 単元の目標

- 等身大の人物が描かれた物語を、自分の体験や気持ちと重ねながら興味をもって、読もうとしている。【関】
- 登場人物の行動や場面の様子から想像を広げながら読み、自分の経験と結びつけて、感想をもつことができる。【読】
- 主語と述語の関係に注意することができる。【言】

2 指導と評価の計画

| 時間 | ○ねらい・学習活動 | 評価の観点 | | | 学習活動における具体的評価規準 ()は評価方法 |
|---------------------------------|---|-------|---|---|--|
| | | 関 | 読 | 言 | |
| (一次) 1 2 | 自分と登場人物を比べて読み、登場人物に手紙を書く。 ○「とうじょう人ぶつとくらべて読もう。」という学習の見通しをもち、全文を読んで、おおまかな話の流れをつかむ。 ・心に残っている言葉や文を書き抜き、感想カードを書く。 ・感想を発表し合い、単元の見通しをもつ。 | ○ | | | ・物語を楽しんで読み、心に残ったことを書こうとしている。 (発言・感想カード) ・感想を発表し合い、単元の見通しをもっている。 (発言) |
| | | ○ | | | |
| (二次) 3 4 5 6 7・8 | ○自分とすみれちゃんを比べて読み、すみれちゃんに手紙を書く。 ・「すみれちゃん」はどんな人物か読み取る。 ・日曜日の朝のすみれちゃんのおねえさんらしいところを読み取る。 ・ぐちゃぐちゃのノートを見たすみれちゃんのおねえさんらしいところを読み取る。 ・絵を消そうとしてやめたすみれちゃんのおねえさんらしいところを読み取る。 ・すみれちゃんの言動について、自分と比べて書く書き方を知って、手紙を書く。 | | ○ | | ・すみれちゃんはどんな人物か読み取っている。(ワークシート) ・すみれちゃんのおねえさんらしいところを読み取り、自分と比べて書いている。 (ワークシート) ・すみれちゃんの心の葛藤を読み取り、自分と比べて書いている。 (ワークシート) ・すみれちゃんのおねえさんらしいところを一つ選び、その理由を自分の言葉で書いている。 (ワークシート) ・すみれちゃんの言動について、自分と比べて、手紙を書いている。 (ワークシート) ○ 主語と述語の関係に注意している。 (ワークシート) |
| | | | ○ | | |
| | | | ○ | | |
| | | | ○ | | |
| | | | ○ | | |

| | | | | | |
|-----------------------|---------------------------|---|---|--|--|
| (三次) 9 10 11 | 登場人物に手紙を書き、自分と登場人物を比べて読み。 | ○ すみれちゃんシリーズや自分と同年齢の子どもが登場する本を自分と比べながら読み、手紙を書く。 | | | |
| | | ・同年齢の子どもが登場する1冊の本を取り上げ、自分と比べて書く書き方を確認して手紙を書く。 | ○ | | ・登場人物の言動について、自分と比べながら手紙を書いている。(ワークシート) |
| | | ・登場人物の言動に着目して、自分が選んだ本を読む。 | ○ | | ・自分が選んだ本を読んで、登場人物の言動やあらすじをつかんでいる。(感想カード) |
| | | ・登場人物の言動と自分を比べながら手紙を書き、交流する。 | ○ | | ・登場人物の言動について、自分と比べながら手紙を書き、交流している。(ワークシート) |

3 単元設定の理由

- 本教材「わたしはおねえさん」の中心人物「すみれちゃん」は、児童と同じ2年生である。すみれちゃんの行動や彼女を取り巻く小さなできごとを通して、すみれちゃんの心の成長を感じることができる作品である。話の展開がコミカルな雰囲気である。読み終えると温かい気持ちになることができる。自分の行動を振り返りながらすみれちゃんに共感し、「わたしなら」と自分の感想をもったり、場面の様子を、想像を広げながら読んだりすることもでき、楽しく読み進めていくことができる作品である。

本単元は、「わたしはおねえさん」を中心教材として、登場人物に着目しながら心情の変化を読んだりすみれちゃんと自分とを比べたりして読みを深め、感想を書く。そして、それをきっかけとして、すみれちゃんシリーズや自分と同年齢の子どもが登場する他の本を読み、登場人物と自分とを比べながら読むことで豊かな読書体験に結び付けていくこともねらいとしている。

○

児童の実態については、省略しています。

- 指導にあたっては、第一次で、一年生の頃の自分を振り返ったり、年上としての成功や失敗の体験を話したりすることで物語に対する意欲を高めるようにする。そして、「わたしはおねえさん」の題名読みの後、教師の範読を聞き、初発の感想をノートに書かせる。感想の交流や挿絵やセンテンスカードの並べ替えを通して、「登場人物と自分を比べて読もう」というめあてをもって意欲的に取り組むことができるようにする。また、すぐに並行して関連した本が読めるように学級文庫に用意しておく。読み聞かせや朝の読書時間、休み時間、読書の時間などを有効に利用した読書ができるようにする。

第二次では、すみれちゃんの言動を中心に想像を広げながら読み進める。すみれちゃんの言動にサイドラインを引いたり、簡単な書き込みをしたりしながら、心の葛藤や心の変化を

読み取らせたい。また、すみれちゃんの気持ちを吹き出しに書いたり、心の成長と自分とを比べながら手紙を書いたりする活動を通して想像豊かに読み取らせたい。

第三次では、「わたしはおねえさん」で身に付けた力をもとに、すみれちゃんシリーズや自分と同年代の子どもが出てくる本を読み、手紙を書き、発表し合ったりする活動を通して読書に興味をもたせるようにしていきたい。

以上のように、本単元では、指導事項「読むこと ウオ」を受けて、「自分と登場人物を比べて読み、登場人物に手紙を書く。」という言語活動を通して、本校の研究主題「主体的に読み、目的に応じて自分の言葉で豊かに表現する子どもの育成」に迫りたい。

4 本時案（第6時）

| | |
|---|--|
| <p>本時の目標</p> | <p>登場人物の言動から、すみれちゃんのおねえさんらしいところを一つ選び、その理由を自分の言葉で書くことができる。【読】</p> |
| <p>準備物</p> | <p>デジタル教科書、挿絵、付箋、ワークシート</p> |
| <p>児童の活動の流れ</p> | <p>教師の支援と評価</p> |
| <p>1 前時を想起し、本時のめあてをつかむ。</p> | <p>○前時の、心が揺れ動くすみれちゃんのおねえさんらしさを想起し、本時のめあてにつなぐ。</p> |
| <p>すみれちゃんのおねえさんらしいところを見つけよう。</p> | |
| <p>2 すみれちゃんのおねえさんらしいところを読み取る。 ・一人で読み取る。 ・みんなで話し合う。</p> | <p>○前時までにとらえたすみれちゃんのおねえさん像を確認する。 ○斉読することにより、本時の学習場面を確認し、すみれちゃんのおねえさんらしいところを見付けるための見通しをもつことができるようにする。 ○挿絵を提示することにより、イメージをもちやすくする。 ○すみれちゃんの様子が分かるところにサイドラインを引いたり、すみれちゃんの気持ちを付箋に書いたりするように伝えることで、自分の考をもつことができるようにする。 ◆サイドラインを引くことができにくい児童には、すみれちゃんのおねえさん像を再度確認したり、一緒に本文を読んだりすることで見付けることができるようにする。 ○デジタル教科書で本文を提示し、児童の発言を書き込むことにより、視覚的に分かりやすくする。 ○「じっと。ずっと。」から、「わらう」という態度になるまでになったことに着目することにより、すみれちゃんの心の中の変化がおきたことをとらえることができるようにする。 ○「わらう」という言葉が4回も出てくることに着目することにより、2人がたくさん笑っている姿を想像できるようにする。 ○すみれちゃん、かりんちゃんの役割読みをすることにより、優しく話しかけるすみれちゃんと快く聞き入れるかりんちゃんの気持ちを想像し、おねえさんらしさを読み取ることができるようにする。 ○すみれちゃんの「ノートをけしかけてやめた」を動作化することにより、かりんちゃんを思うおねえさんらしさに気付くことができるようにする。</p> |
| <p>3 本時のまとめをする。</p> | <p>◎読み取ったすみれちゃんのおねえさんらしい言動の中から、おねえさんらしいチャンピオンを選び、視写をしたり、理由を付けて自分の言葉で書いてまとめたりすることで本時のまとめとする。 ◆机間指導により、書けていない児童には、板書を一緒に振り返ることにより支援する。</p> |
| <p>すみれちゃんのおねえさんらしいところを一つ選び、その理由を自分の言葉で書くことができている。 (ワークシート)</p> | |
| <p>4 次時の学習を知る。</p> | <p>○時間があれば、書いたまとめを数名の児童が発表することにより、いろいろな感じ方があることに気付くことができるようにする。</p> |
| <p>4 次時の学習を知る。</p> | <p>○次時は、「わたしはおねえさん」を読んで、すみれちゃんにお手紙を書くことを知らせ、意欲をつなげる。</p> |

本時案（第11時）

| | |
|--|---|
| 本時の目標 | 登場人物の言動について、自分と比べながら手紙を書き、交流することができる。 |
| 準備物 | 手紙の書き方の掲示物, ワークシート |
| 児童の活動の流れ | 教師の支援と評価 |
| 1 本時のめあてをつかむ。 | ○前時の活動を振り返り、本時は自分が選んだ本について、登場人物への手紙を書くことを知らせ、学習への意欲が高まるようにする。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> どうしよう人ぶつと自分をくらべながら手紙を書こう。 </div> | |
| 2 登場人物の心に残った言動を選ぶ。 | ○同じ本を選んでいる児童が隣の席になるようにし、二人組で話し合いながら活動を進めることができるようにする。 ○あらすじを確認したり、前時に書いた感想カードを互いに並べたりすることにより、登場人物のどの言動について手紙を書きたいのか明確にすることができるようにする。 ○心に残った理由や自分だったらどうするかを話し合うよう助言し、手紙に書く内容を考えることができるようにする。 |
| 3 手紙に書く事柄を確認する。 | ○掲示物を使って、書く事柄や手紙の書き出し、文末を確認し、活動に抵抗なく取り組むことができるようにする。 ・1段落・・・心に残った言葉や文 ・2段落・・・心に残ったわけ ・3段落・・・自分と比べて思ったり考えたりしたこと |
| 4 手紙を書いて交流する。 | ◎登場人物の言動について自分と比べながら手紙を書くことにより、選んだ本の世界を楽しむことができるようにする。 ◆書き始めることができにくい児童には、書き出しや文末を記入したワークシートを使って書くよう助言し、手紙を完成させる充実感を味わうことができるようにする。 ○手紙を書き終えた児童には、登場人物への呼びかけを続けて書くよう伝え、登場人物に寄り添いながら、自分の思いを表現することができるようにする。 ○手紙ができあがった児童には、小さな声で音読するよう伝え、表記や文の主述の誤りを訂正することができるようにする。 ○隣の席の児童と交換して読み合うことにより、互いの感じ方や考え方を認め合うことができるようにする。 |
| <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 登場人物の言動について、自分と比べながら手紙を書き、交流することができる。（ワークシート・行動観察） </div> | |
| 5 本時のまとめをする。 | ○何人かの手紙を全体の場で紹介することにより、自分と比べながら読むことのおもしろさに気付くことができるようにする。 ○単元全体を振り返り、これからもいろいろな本を読みたいという意欲を高めることができるようにする。 |